



自衛隊栃木地方協力本部

募集相談員を3年ぶりに基地研修へ案内



自衛隊栃木地方協力本部小山地域事務所（所長 菊地2陸尉）は2月16日、栃木県自衛官募集相談員連絡会小山支部の基地研修を支援した。

この研修は新型コロナウイルス感染症の影響で約3年ぶりに実施したものであり、参加者約20名が航空自衛隊百里基地を訪問した。

最初に訪れた広報資料館では研修の全般説明を受けたあと館内を見学し、百里基地の沿革がわかる写真パネル等を見て回った。装備品のレプリカなども展示されており、実物と同じ重さの小銃の模型が展示されているコーナーでは、参加者はかわるがわる持ち上げて実際の重さ確かめていた。

続いて、戦闘機見学では格納庫においてF-2戦闘機を前に説明を受け、間近で見ると迫力に参加者からは思わず「すごいな」と声が出ていた。格納庫前ではF-2戦闘機8機の離発着を見ることができ「貴重な経験になった」との感想も聞かれた。救難機見学では救難隊の勤務要領や連絡態勢などの紹介があり、日本地図のパネルを元に、全国のどの辺りに救難隊が所在しているかなどの説明があった。エプロン部分ではU-125A救難捜索機やUH-60J救難ヘリコプターを実際に見ることができ、座席を外した状態のヘリの内部を見学した際には、救助者を引き上げる要領について説明を受けていた。

参加者からは「自衛隊の勤務場所を実際に目にし、自衛隊に関する知識が深められた気がする」「今回の経験を募集協力につなげていきたい」といった感想があった。また「募集相談員の会員内の顔つなぎができて良かった」と久しぶりの研修で顔を合わせたことを喜び声も聞かれた。

栃木地本は「今後も部隊研修等を支援し、自衛隊への理解促進に努めていく」としている。

警察署より交通安全に貢献した功績による表彰状を受贈



自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶1陸佐）は3月13日、宇都宮中央警察署より交通安全に貢献した功績による表彰状を受贈した。

これは宇都宮合同庁舎前の交差点において、栃木地本が数年にわたり交通安全運動に協力したことに対して表彰されたものである。

昨年9月には秋の全国交通安全運動期間にあわせて、栃木県警（宇都宮中央警察署）及び宇都宮文星女子高等学校（普通科美術デザインコース及びサッカー部の学生）の協力を得て、交通安全活動を実施した。宇都宮文星女子高校は、総務課管理班所属の末吉1陸曹が広報官として勤務していた際に担当した学校であり、現在でも地域活動等での交流が続いている。当日は「交通安全運動実施中」と書かれたのぼり旗や「譲り合いを大切に」と表示された看板等を掲げ、通行車両や通行人に対し事故防止等の注意喚起を行った。また、自転車で通学する高校生が多く見られる場所であるため、自転車運転のマナーの遵守についても呼びかけた。

栃木地本は「今後も地域の活動に積極的に参加し、自衛隊を身近に感じてもらえるよう努めていく」としている。

